

共生

奈良県生協連

2025年7月

NO.137



第36期通常総会



第36期通常総会会場入口にて被団協ノーベル平和賞授賞式後ノルウェーの首都オスロで行われた祝賀パレードで持たれた横断幕を掲示

もくじ

瀧川潔さんの思い出に感謝を込めて… 1・2

奈良県生協連第36期通常総会…………… 3・4

会員生協からの報告…………… 5

生協・行政協議会・Peace Now! 奈良2025… 6

奈良の食と農を考えるマルシェ&講演会・リレー報告会… 7・8

若者応援プロジェクト奈良2025 奈良県立大学・

能登災害支援ボランティア…………… 9

おじゃましました～奈良県医療福祉生協編…10

奈良県での生協運動、 市民活動における偉大なる先達、 瀧川潔さんの思い出に感謝をこめて

生協と奈良県をこよなく愛し、その生涯において奈良県での生協運動創設とその発展に粉骨砕身の努力をおしなかつた瀧川潔さん(享年82歳)が、5月29日に急逝されました。感謝をこめて思い出を語らせてもらいます。

奈良市民生協(現在のならコープ)は51年前の1974年7月に設立されましたが、現相談役(初代専務理事)の稲川和夫さんを専従トップとして4人の職員を得て、事業が開始されました。瀧川さんはそのおひとりとして商品事業・共同購入事業及び組織活動の責任者として活躍されました。その後、増田誓治さん(故人)、伊藤次栄さん(故人)のあと4代目の専務理事に就任され、副理事長、理事長を担われ、また奈良県生協連の初代専務理事を兼務され、副会長、会長として、常に生協運動と生協事業の先頭に立ち続けてられました。商品事業では地場商品開発と産直事業化(米、牛・豚・鶏等の精肉、牛乳、鶏卵、地場野菜)、株式会社奈良コープ産業の育成、並びに株式会社コープワークシステム(クリエイティブ・ワーカーズ・ソサエティ、略してCWS)の子会社結成などに尽力され、さらに奈良県農協(JAならけん)様との産直提携、奈良県協同組合連絡協議会の結成など、特筆すべき業績として記憶されます。店舗事業ではネイバーフッド型ショッピングセンター構想にそった多店舗展開に挑戦されました。また奈良県でのヒバクシャ支援活動と核兵器廃絶運動、ユニセフ活動、平和憲法を守るなどの市民活動分野でも大きな功績を残されました。退任後も毎年の暑い夏の奈良県内平和行進にかかさず参加されていました。加えて、再エネ協同基金の初代理事長として家庭での太陽光発電設置の助成事業、特定非常

利活動法人サークルおてんとさんでは小学生などを対象にした出前講座(マンモスくんのキャラクターとして出演)や、NPO法人奈良の食文化研究会理事長として奈良新聞連載記事の執筆(柿の葉寿司の歴史、うどんの奈良発祥説の研究、古代食の再現や出版等)を担当されるなどの市民活動を熱心に続けてられました。

奈良市民生協は地域生協としては後発となり全国生協間の「連帯の子」として誕生しましたが、瀧川さんは大学生協時代の経営改革の経験を生かして生協間及び協同組合間の連帯活動には並々ならぬ力を注がれました。Kネット協同連帯機構常任幹事、コープきんき事業連合設立発起人(のち副理事長)、日本生協連監事の重責を担われてきました。奈良県生協連での活躍としては奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、大阪樟蔭女子大学(当時の香芝市関谷キャンパス時代)の生協設立支援、奈良県医療福祉生協の創立を成功させる功績が強調されます。

民主主義と自由を愛し権威主義を拒んでおられた姿、常に他人への配慮を忘れない寛容な人格に多くの職員が安心して生協で仕事ができたとします。人と山と自然を愛されていたことを思い出しつつ、「山高きが故に貴からず、樹あるを以って貴しとなす」の言葉とともに感謝をこめ、その存在の大きさを思い知っております。瀧川さんを失った今、「大樹」のおかげで後進の私たちは生協に降り注ぐ厳しい雨風をしのぐことができたことを痛感しています。瀧川さんの情熱に満ちた生協活動を思い返し、その思いを引き継ぎ、若き世代に伝えたいと決意しています。瀧川さん、ありがとうございました。そして安らかに眠ってください。

たき がわ きよし
瀧川 潔

昭和17年生(享年82歳)



市民生活協同組合ならコープ 名誉顧問
奈良県生活協同組合連合会 名誉会長

〈役職員歴〉

1968年(S43)	全国大学生協連合会入協	関西地連勤務
1969年(S44)	大阪外国語大学生協移籍	専務理事
1974年(S49)	奈良市民生活協同組合設立に参加	
1988年(S63)	奈良市民生活協同組合	常勤理事
1990年(H 2)	奈良県生活協同組合連合会設立	専務理事
1991年(H 3)	奈良市民生活協同組合	常務理事
1992年(H 4)	奈良市民生活協同組合	専務理事
1997年(H 9)	日本生活協同組合連合会	監 事
2001年(H13)	市民生活協同組合ならコープ	副理事長
2003年(H15)	市民生活協同組合ならコープ	理 事 長
2007年(H19)	市民生活協同組合ならコープ	特別顧問
2007年(H19)	奈良県生活協同組合連合会	副 会 長
2009年(H21)	奈良県生活協同組合連合会	会 長
2012年(H24)	市民生活協同組合ならコープ	名誉顧問
2017年(H29)	奈良県生活協同組合連合会	名誉会長

1.行政関係での主な業績

- (1) 奈良県農政推進会議農村活性化委員として農政推進に寄与
- (2) なら食と農(みのり)の県民会議特産品部会委員として県内産品掘り起こし推進に寄与
- (3) 奈良県食品安心・安全懇話会委員として4年余コメンテーターとして寄与
- (4) 奈良県消費生活審議会 委員(2010年～2013年)として寄与

2.生協関連での主な経歴

- (1) 大阪共同仕入会議(大阪・和歌山・奈良) 役員
- (2) コープきんぎ事業連合 副理事長(設立発起人)
- (3) Kネット協同連帯機構 常任幹事
- (4) 株式会社奈良コープ産業 代表取締役社長(2代目)
- (5) 日本生活協同組合連合会 監事
- (6) 奈良県生協連 専務理事・副会長・会長

2008年10月 厚生労働大臣表彰を受賞
個人は瀧川 潔 県連副会長
団体は奈良女子大生協



(左) 女子大生協大塚 浩理事長
(右) 瀧川 潔県連副会長

3.主な民間歴

- (1) NPO法人 奈良の食文化研究会設立に参加 理事長(～2022年)
- (2) 公益財団法人 日本ユニセフ協会奈良県支部 常務理事(2017年～2024年)
- (3) 奈良県医療福祉生活協同組合 設立発起人・理事
- (4) 再エネ協同基金 理事長(2016年～2022年)
- (5) 特定非営利活動法人 サークルおてんとさん 理事(2013年～2024年)



奈良県障がい者・家族・県民のつながり祭



フレンドシップトレインひまわり号



平和行進

※役職名は当時のものです

奈良県生協連 第36期通常総会を開催

2025年6月28日(土) 奈良ロイヤルホテル

6月28日、奈良県生活協同組合連合会第36期通常総会を開催しました。2024年度事業報告・決算関係書類、2025年度事業計画および予算案、役員選任および役員報酬に関する議案について、第1号議案から第4号議案のすべてが可決・承認されました。また、特別採択として「平和宣言」が確認されました。この「平和宣言」は、会員生協の思い、日本被団協や被爆者の平和への願い、Peace Now! 奈良をはじめとする若者の声を込め、理事会で確認されたものです。

2025年は「国際協同組合年」であり、また「被爆・戦後80年」の節目の年



総会会場の様子

でもあります。これを踏まえ、2025年度事業計画に基づいて新たな活動がスタートしました。

当日は、ご来賓18名、理事11名、監事2名、代議員27名(うち委任0名・書面議決0名)、オブザーバー36名、事務局を含め、総勢103名が出席・参加し、奈良県生協連の一年間の取り組みや、会員生協の活動報告を共有しました。

森宏之奈良県生協連会長は冒頭の挨拶で、瀧川潔名誉会長への追悼の意を表するとともに、「被爆・戦後80年を迎え、平和の危機が深まる中で、核兵器廃絶と被爆体験の継承に取り組んでまいります。また、令和の米騒動や物価高騰による厳しいくらしのなかで、地域共生社会の実現に向けて努力してまいります。奈良県生協連35周年を機に、2025国際協同組合年に向けて生協の輪をさらに広げ、協同組合間の連携を深めてまいります。また、健康増進と豊かなくらしの実現、能登半島地震被災者への支援など、さまざまな課題に取り組みながら、地域に根ざした活動を推進してまいります。」と述べました。

また、ご来賓を代表して、佐藤啓参議院議員秘書 亀田真伍様、奈良県地域創造部県民くらし課長 染川幸史様、奈良県農業協同組合中央会専務理事 西川清様、奈良県社会福祉協議会常務理事 石井裕章様、特定非営利活動法人なら消費者ねっと理事長 北條正崇様から、それぞれお祝いの言葉をいただきました。

全国からは51件の祝電・メッセージをいただきました。



奈良県生協連
森 宏之会長



佐藤 啓参議院議員
亀田 真伍秘書



奈良県地域創造部県民くらし課
染川 幸史課長



奈良県農業協同組合
中央会
西川 清専務理事



奈良県社会福祉
協議会
石井 裕章常務理事



特定非営利活動法人
なら消費者ねっと
北條 正崇理事長

承認された議案

- | | |
|-------|------------------------|
| 第1号議案 | 2024年度事業報告・決算 関係書類承認の件 |
| 第2号議案 | 2025年度事業計画及び予算案決定の件 |
| 第3号議案 | 役員選任の件 |
| 第4号議案 | 役員報酬決定の件 |
| 特別採択 | 「平和宣言」採択の件 |



2025年度の事業計画

- 協同組合理念を学び、協同組合間の交流・連携をはかります。
- 被災地支援と地域防災に取り組めます。
- 適格消費者団体なら消費者ねっとと連携し、消費者市民社会の形成に寄与します。
- 被爆者なき時代の核兵器廃絶運動を念頭に、平和の取り組みを推進します。
- 自然・くらし・エネルギーの地域共生をめざして取り組みます。
- 会員と社会的諸課題を学び考える場を設けます。
- 会員同士の活動交流と連帯をすすめます。
- 渉外・広報活動を強め、生協の社会的活動の認知度向上に努めます。
- 持続可能な開発目標(SDGs)の取り組みを推進します。
- 食の安心・安全、食料自給率の向上をはかります。
- 生協・行政協議会は、奈良県行政との懇談の場として開催します。
- 安心して暮らせる地域共生社会づくりに貢献できるよう取り組みます。

ご臨席いただいた来賓の皆様(順不同)

- | | |
|-----------------------|--------|
| ・佐藤啓参議院議員秘書 | 亀田 真伍様 |
| ・奈良県地域創造部県民くらし課長 | 染川 幸史様 |
| ・奈良県地域創造部県民くらし主査 | 保田 万理様 |
| ・奈良県消費生活センター所長 | 佐野 俊也様 |
| ・奈良県農業協同組合中央会専務理事 | 西川 清様 |
| ・奈良県社会福祉協議会常務理事 | 石井 裕章様 |
| ・日本生活協同組合連合会関西地連事務局 | 今永 紘子様 |
| ・近畿労働金庫 地域共生推進室 | 東中 健悟様 |
| ・特定非営利活動法人なら消費者ねっと理事長 | 北條 正崇様 |
| ・奈良県共同募金会常務理事 | 金剛 真紀様 |
| ・日本労働者協同組合連合会センター事業団 | 崔 亨瑠様 |

寄せられた祝電・メッセージ **51件**

ありがとうございました。

総会は、岡田昭典理事の司会進行のもと、ならコープ代議員の木下智子さんが議長に選出され、議事に入りました。議案の提案とともに、各会員生協から活動報告が行われ、代議員27名中、実出席27名（委任・書面議決ともに0名）のもと審議・採決が行われ、すべての議案が賛成多数で可決・承認されました。

最後に、末吉英男副会長が閉会の挨拶に立ち、「地域共生社会づくりに向け、地域の窓口としての役割を果たしながら、2025年国際協同組合年を機にさらに取り組みを強め、協同組合の認知度を高めていきたい」と述べました。



司会 岡田 昭典理事



議長 木下 智子氏

2025年度 役員体制

*会 長	森 宏之	員外
副 会 長	末吉 英男	奈良県労働者共済生活協同組合
副 会 長	福西 啓次	市民生活協同組合ならコープ
*専務理事	奥西 武史	員外
理 事	岡田 昭典	生活協同組合コープ自然派奈良
理 事	城本 壘	生活クラブ生活協同組合
理 事	谷垣 晴香	奈良教育大学生生活協同組合
理 事	鶴谷 将彦	奈良県立大学生生活協同組合
理 事	姫野 恭博	奈良女子大学生生活協同組合 奈良教育大学生生活協同組合
理 事	廣 和樹	奈良工業高等専門学校生活協同組合
理 事	福山 明浩	奈良県医療福祉生活協同組合
理 事	吉田 由香	市民生活協同組合ならコープ
監 事	岩崎 正孝	奈良県労働者共済生活協同組合
監 事	中西 京美	市民生活協同組合ならコープ

*代表理事

お疲れさまでした 今期で退任される理事・監事



監事 金光 結香さん 理事 藤本 隼平さん
ならコープ 奈良女子大生協 奈良教育大生協



よろしくお願いします 新任理事・監事



理事 姫野 恭博さん
奈良女子大生協 奈良教育大生協



理事 廣 和樹さん
奈良高専生協



監事 中西 京美さん
ならコープ

第36期通常総会 特別決議「平和宣言」



今もなお、ウクライナ侵攻やガザ地区の紛争などにより、世界で罪のない市民や子どもたちが命を奪われています。人々が穏やかに暮らしていた日常が、戦争や核兵器によって一瞬で奪われてしまう現実が今まさに起こっています。

そんな中で、日本被団協が2024年ノーベル平和賞を受賞したことは、核兵器廃絶への訴えが世界に認められた証です。被爆・戦後80年を迎える今、訴え発信し続けてこられた被爆者の方々に寄り添い、「ノーモア・ヒバクシャ」の志に思いをはせましょう。

私たちがすべきことは、家族や仲間とともに「平和とは何か」「自分たちにできることは何か」について、過去を学び、一緒に考え、声を上げ行動することです。平和は誰かが与えてくれるものではありません。「平和とよりよい生活のために」私たち一人ひとりが、大切に育んでいくものです。対話を通して問題を解決する力を信じ、誰もが自分らしく生きられる社会を築くために、今できる小さな一歩を大切にしていきたいです。

それぞれ異なる考えや背景を持つ人びとが共存する「共生」の価値を大切に、家族と、仲間と、地域の人と対話を重ね、違いを認め合い、思いやりを持ってささえあう。その小さな積み重ねが、未来に確かな平和をもたらします。

今こそ、平和の大切さを共に確かめ合い、つながりを広げていきましょう。

2025年6月28日

奈良県生活協同組合連合会 第36期通常総会

～懇親会では活動紹介や 情報交換で参加者が 交流しました～



会場の様子

総会後の懇親会は今年も、ご来賓から大学生協の学生委員まで、幅広い年代が参加する多世代交流の場となりました。

日本生協連関西地連の今永紘子事務局、近畿労働金庫地域共生推進室の東中健悟室長、日本労働者協同組合センター事業団関西事業本部奈良エリアの崔亨珞様より、それぞれの活動の紹介と奈良県生協連への期待の言葉をいただきました。奈良女子大学生協WINDYの野口薫留子さんから共済推進の取り組み報告のあと、会員9生協による活動報告で、お互いの活動を知る良い機会となりました。また、恒例の労済生協によるクイズなど、工夫を凝らした内容に笑顔があふれ、楽しい情報交流が進みました。



日本生協連関西地連
今永 紘子事務局



近畿労働金庫
地域共生推進室
東中 健悟室長



日本労働者協同組合連合会
センター事業団
崔 亨珞様

会員生協からの報告

奈良県労働者共済生活協同組合

こくみん共済コープは、災害時の生活再建を支える使命を担っています。昨年は能登半島地震への取り組みを報告しましたが、近年、豪雨や雹など身近な地域での自然災害が増加。南海トラフ地震の発生確率も高まり、「いつ起こってもおかしくない」状況です。阪神淡路大震災から30年が経ち、記憶が薄れる今だからこそ、ご自宅の火災保険を確認し、防災セミナーへ積極的に参加するなど、自然災害への備えを再認識してください。共済生協は行政連携による地域活動にも注力し、2025年の国際協同組合年を迎え、「災害弱者を出さない」という思いで活動を続けます。



栗岡 勝也さん

生活クラブ生活協同組合

今年度は「食」「環境・エネルギー」「福祉・ケア」を柱に取り組みました。お米の問題が騒がれる中、生産者との交流や農業体験を通じて食の重要性を再認識し、パレスチナからの来訪者との交流も心に残る経験となりました。環境分野では、石鹼を使った水保全活動を企画し、地域自治体との連携で環境配慮の取り組みを広げました。福祉活動として、フードバンク活動「おふくわけ」は、若者応援プロジェクト奈良を通じて消費材をお届けしました。



堀口 雅子さん



吉本 亜希さん

奈良県立大学生生活協同組合

「組合員全員で作り上げる生協」を目標に掲げ、多様な活動を展開しました。学生が主体となって企画した「防災意識向上ウィーク」では、震災学習の経験を活かし、体験型プログラムで防災意識の向上を図りました。新入生向けには、オンラインと対面のハイブリッド説明会で入学前の不安を解消し、交流の機会を提供しました。生協への関心を高めるため、「お菓子の家コンテスト」を開催し、組合員が楽しく生協に関わるきっかけを作りました。また、年末年始には「アルコールパッチテスト企画」で飲酒の危険性を啓発し、学生の安全と健康をサポートしました。



三浦 茉桜さん

奈良女子大学生生活協同組合

学生委員会WINDYは、組合員の生活向上を目指し、昨年度は様々な活動を行いました。Instagramでの積極的な情報発信や、オンラインと対面を組み合わせた新入生向け企画で、組合員の声を取り入れ、交流を促進しました。また、自転車点検や食生活相談で健康・安全意識を高め、共済の啓発にも注力。さらに、おにぎりアクションや「Peace Now! 奈良」の運営を通じて、食品ロス削減や平和といった社会的課題にも取り組みました。



近藤 彩月さん

市民生活協同組合ならコープ

2024年度は「人づくり」「商品づくり」「地域づくり」を柱に事業改革を進め、地域貢献活動も展開。また、能登半島地震を受け、防災意識向上のために啓発活動も実施しました。商品開発では、50周年+1記念のエリア限定商品も発表しました。2025年度は「商品力・人づくり」を重点方針とし、組合員の声に基づく商品・事業強化と職員育成に注力し、地域づくりではAI活用で社会的課題解決を加速させます。「地域まるごと」の実現をめざします。



塩津 由美さん 河上 あけみさん

奈良教育大学生生活協同組合

学生委員会は、「学生の学生による学生のための学生委員会」を掲げ、学生主導のイベント企画に力を入れました。夏祭りや7つの新学期企画を通じて、学生間の親睦を深め、地域の子どもたちや学外の人々も楽しめる情報発信を行いました。また、広報活動も強化し、組合員の声を拾う「ひとことカード」を復活させました。2025年度は、大学内にとどまらず、地域住民を巻き込んだイベントを積極的に開催し、生協の認知度向上を目指します。さらに、新入生の大学生活への不安解消支援や、生協商品の販売促進にも一層力を入れていく予定です。



早川 裕生さん

奈良工業高等専門学校生活協同組合

奈良高専生協では、学生の生活を支える活動を年間通して行っています。2024年度は、自転車点検やかき氷企画、タヌローカフェなどを実施し、特にカフェ企画では多くの利用がありました。新入生歓迎会では参加者が63人に増加し、ビンゴなどで交流を深めました。通常総会では食堂への意見交換も活発に行われました。来年度は設立30周年を迎えるにあたり、記念企画を計画中です。今後もより良い活動をめざしていきます。

稲垣 美生さん 高木 健児さん
木林 涼平さん

生活協同組合コープ自然派奈良

2024年度は、生産者学習会を毎月実施し、商品を知ってもらい理解を深める取り組みに注力しました。田んぼ体験や大人の遠足（バスツアー）を通じて、商品の背景を知る機会もつくりました。福祉ビジョン策定に向けては、各地の福祉施設を見学し、学びを重ねています。地域とのつながりも大切に、子ども笑顔基金の寄付先「おてらおやつクラブ」への支援や、活動を学ぶイベントを開催。困難を抱える家庭への支援の輪を広げる機会となりました。今後も地域とのつながりを大切に、活動を進めてまいります。



重村 とみさん

奈良県医療福祉生活協同組合

2024年度、奈良県医療福祉生協は健康づくり・つながりづくり・居場所づくりを柱に活動を進めました。第1回健康マルシェや「おしゃべりタイム」では多くの参加があり、健康チェックや健診受診の呼びかけを行いました。地域委員会では防災学習やラジオ体操、健康体操などを実施。医療や生活の相談窓口では、経済面や精神面での支援を行いました。無料・定額診療の取り組みも継続し、誰ひとり取り残さない地域づくりを。事業と活動で取り組んでいきます。



平井 典子さん

2025年度 第1回 生協・行政協議会

2025年度 第1回 生協・行政協議会を5月15日ブロム近鉄奈良駅前にて開催し、奈良県地域創造部県民暮らし課 染川幸史課長、澤田真樹主査、保田万理主査および奈良県生協連から森宏之会長はじめ15名が参加しました。

森会長からは、米の値上がりをはじめ物価高騰が続いており、生活困窮者や子どもの貧困は見えにくいという課題が深刻化しています。奈良県生協連では「奈良の食と農を考えるマルシェ&講演会・リレー報告会」に取り組み地域の食の大切さや支援のあり方について考える機会となりました。また、2025年は国際協同組合年であり、協同組合がより良い社会を築くという責任を持ち、組織運営と活動をより深めていきたい。さらに、県社協や市町村社協との連携、人権を重視した運営を進めるとともに、厳しい社会状況の中で組織のあり方を転換し、組合員への貢献を高めていきたいとの挨拶がありました。

染川課長からは、県庁の部課再編と担当課の役割について説明があり、昨年度から消費者行政、交通安全や防犯対策、県民の安心安全、企業との包括協定、ボランティア活動・NPO支援など、多岐にわたる地域課題の解決を担っていることが紹介されました。奈良県生協連が消費者行政をはじめさまざまな分野で活躍し、少子高齢化が進むなかで見守りネットワークの構築や被害の事前防止など、地域共生社会づくりに協力して取り組んでいることにも感謝が述べられました。県民暮らし課 保田主査からは、体制と主な所掌の詳細と特徴について報告があり、奈良県生協連 奥西専務理事からは、2025年度の奈良県生協連の活動方針について報告がありました。その後の意見交換では、消費者被害への対応として、被害を受けた方への救済のあり方や、悪質な事業者への対処の必要性、相談・苦情への対応体制やその件数の推移について意見が交わされました。また、食品の安全性に関する行政の取り組みや評価、登下校中の子どもの交通事故を防ぐための啓発活動、大学生のITリテラシー不足に起因する消費者トラブル、不要品高価買取トラブル、こども食堂への予算支援の必要性など、幅広い課題について情報を共有しました。



“Peace Now! 奈良 2025”が開催されました 「奈良」だから伝えられる平和

6月22日 今年も、奈良教育大学の教室とキャンパスを会場に開催され、奈良県生協連が支援しました。

Peace Now! 奈良は、「①見て、触れて、聴いて、他者と話すことをとおし、平和について考え、自分なりの想いを持つ ②平和について「知り」、戦争の歴史や現在起こっている問題などへの関心を「深め」、一人ひとりが身近なテーマとして「考える」ことができるようになる」ことを目的に、奈良女子大学と奈良教育大学の生協学生委員が企画、運営しました。今年で10年目を迎え、学生委員による自主・自発的な取り組みとして、創意・工夫を凝らした活動となっています。

実行委員を含む大学生27名、フィールドワーク講師の吉川好胤(よしたね)先生、ならコープの活動推進委員、奈良県生協連など合計35名が参加しました。



弾薬庫



糧秣庫



びーなら図書館

当日のプログラムは「アイスブレイク」「びーなら図書館」「フィールドワーク」「アウトプット」とし、参加者・実行委員にとって一体感・充実感のある一日となりました。資料は、多くの文献や情報を収集し、実行委員会で話し合い、「わかりやすく」「充実した」内容にまとめられていました。

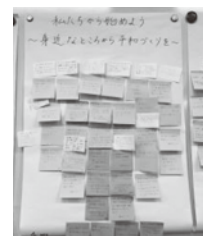
◆「びーなら図書館」は、平和×〇〇というテーマで作成した記事(「平和のために憲法と向き合う」「戦争×天気予報」など)をもとに知識を得、同じ記事を読んだ人同士での意見交流、次に違う記事を読んだ人同士で交

流し平和についての思いを語り合いました。◆「フィールドワーク」は、奈良教育大学にある8つの戦跡を訪れ、過去の戦争の歴史を学びました。戦跡は、①「吉備塚」「糧秣庫」、②「酒保(軍隊の駐屯地内に設けられた日用品・嗜好品を提供した売店)」、③「宮庭」「弾薬庫」、④法務局内にある「聯隊碑」の4つのコーナーにわけ、グループごとに回り実行委員が分担して各戦跡の前で説明しました。◆「アウトプット」は、学んだこと、感じたことを過去・現在という視点から整理し、それを踏まえたうえで、今後どのような未来を目指していくかにつなげるか、について交流し各グループで一つのスローガンにまとめました。(「私たちから始めよう～身近なところから平和づくりを」などのように)

最後に吉川先生は、「むつかしいことを優しく」「優しいことを深く」「深いことを楽しく」学ぶ大変すばらしい取り組みだ、と話されました。(なお、今年は、6月14日のリハーサルの日には、ならコープの「子ども新聞・にじのはし」の子ども記者(小学生・中学生)が戦跡を回って、実行委員が説明しました)



聯隊碑



アウトプット

奈良の食と農を考える マルシェ&講演会・リレー報告会

日本人の主食であるお米が買えないという事態に日本中が大騒ぎになりました。ウクライナ危機から始まった食料争奪戦、異常気象による農産物の高騰、そして農業従事者の高齢化と農業継続の困難さ。このままでは日本の食料安全保障が崩壊すると警告を発しておられる東京大学大学院の鈴木宣弘先生をお招きして、奈良県生協連と3生協共同企画のマルシェで講演をしていただき、230名の方が熱心に耳を傾けました。先生は三重県のご出身。半農半漁で生計を立ててこられたご両親の背中を見て育ち、生産者の立場で農業政策を見てこられたと自己紹介されました。講演後、奈良県内の各団体から地産地消の取り組みの報告をしていただき、生産者と消費者、行政・自治体・事業者が、奈良の食と農について一緒に考える機会となり、持続可能な農業への相互理解が進む機運が高まりました。

みんなで考えよう！日本の食料自給率問題

■講演 講師 鈴木 宣弘氏（東京大学大学院 特任教授・名誉教授）

日本の食糧自給率は、種や肥料の自給率の低さも考慮すると38%どころか10%あるかどうかの状況。局地的な核戦争が勃発した場合、被爆による死者よりも、「核の冬」による食料生産の減少と物流停止による2年後の餓死者が世界全体で2.55億人と予想され、その約3割が自給率の低い日本に集中すると米国ラトガース大学の研究者らが推定された。その推定は決して大袈裟ではない。国内生産を増強しないといけないのだが、国内農業は生産コスト倍増でも農産物価格に転嫁できず、廃業する農家が激増しかねない状況。「今だけ、金だけ、自分だけ」の一部企業が国の政治をとりこみ、それを放置したら、戦争や災害などで物流が止まった場合、国民の食料はなくなる。農業の崩壊で関連産業も農協・生協も地域の政治・行政も



鈴木 宣弘先生

存続できなくなる。協同組合・市民組織など共同体的な力が自治体の政治・行政、医療界、教育機関、心ある企業と連携して地域で奮起し、地域のうねりを国政が受け止めて国全体のうねりにする必要がある。お金を出せば食料が買える時代は終わった。不測の事態に国民の命を守るのが「国防」なら、地域農業を守る事こそが安全保障。多額の防衛費をかける一方で、農業が消滅してしまったら、日本での餓死者が出ることは現実味を帯びる。多額の武器購入ではなく、昆虫食や培養肉や人工卵を進めるのではなく、農業にこそ数兆円の予算をつけるべき。生産者に必要な支払額と消費者が払える額とのギャップを埋める

のは政府の役割。農業問題は消費者自身の問題であり、農家と消費者が一体化した地域で自給できることが重要になる。食料安全保障を強化する体制を確立するための基礎的いや、安全な学校給食の無償化を含めて上乘せし、かつての5兆円の予算に戻すこと。日々の買い物の中で少し高いが地元の安心・安全な食品を買ってほしい。リスクのある食品を食べないことで自然環境や健康を大切に生産者を応援することができる。消費者の小さな選択の積み重ねが、日本の食と農と命を守ることにつながる。生協や農協の皆さんの力に期待しています。



リレー報告

●ならコープ五條事業所準備室（コープの農場）

杉田 貴志さん

南部の耕作放棄地の減少、地産地消の推進、県の食料自給率に貢献し、農業と福祉の連携をさせることを目的にしています。温暖化の影響と産地の不作もあり、市場の白菜価格が高騰したが、当初の計画の約12,000玉を安定した価格で奈良県産白菜を各店舗へお届けできました。



●コープ自然派奈良理事長

上市 佳織さん

大和ひみこ米は15年以上続く田んぼ体験と年間予約の取り組みです。奈良の野菜セットや「奈良の学校給食を考える会」は地場産率をUPする取り組みもしています。消費者がつくる協同組合が生協であり、食べものから社会を変えようとする社会運動。コープ自然派の軸は国産オーガニック。食と農と環境は一体、食を選ぶことは未来に投票することになるのです。



●生活クラブ生協理事長

夏目 有香さん

組合員の願いからつくり出してきた生産者とのつながりを大切にしている。使用価値は、人と人とのつながり・関係性で育まれます。食材が届くのは、生産者、流通の努力のおかげ。F(食)・E(環境)・C(福祉) 自給ネットワークをめざしています。



リレー報告の
会場の様子▶



リレー報告



● 田原本町多(おお)地区の美しい多地区の
田園風景を楽しむ会／女性部長

中井 登志子さん

多集落営農組合は64戸の組合員で構成され、奈良県下最大の60haの水田を管理。地域ブランド米「安萬侶さん米」などを販売。「楽しむ会」は各自治会や婦人部と連携して地元産品使用の郷土料理の提供やイベントを実施し、高齢者が農村文化を伝承し若者に受け継ぐ役割を果たしてきました。自治会婦人部との連携で地域イベントを支援。6次産業化プロジェクトを立ち上げ、加工品を開発し、道の駅への出店を通じて地域ブランドを確立。直営事業（農家レストラン、収穫体験など）の計画を進めています。



奈良の食と農を守るために

—地域生協と関係団体が連携したマルシェ開催



コープ自然派奈良



組合員理事交流実行委員会において、3つの地域生協の理事長（ならこーぷ・こーぷ自然派奈良・生活クラブ生協奈良）が、奈良県の食料自給率の低さや農業の担い手不足による地域農業の衰退に対する共通の危機感を共有しました。この問題意識のもと、3生協と奈良県生協連が連携し、「奈良の食と農を守るマルシェ&講演会リレー報告」を開催することとなりました。マルシェ運営にあたっては、こーぷ自然派奈良および生活クラブ生協のノウハウを活かし、事故やトラブルもなく、約500名以上の来場者を迎えて無事終了することができました。

当日は、奈良県、JAグループ奈良、奈良県森林組合連合会にも賛同いただき、奈良県農村地域づくり協議会を通じて出店。これにより、奈良県生協連と3つの生協と3団体による協同出店が実現しました。

これまで交流の少なかった団体同士が「奈良の食と農を守る」という共通の思いを持って一堂に会したことで、大きな意義のあるマルシェとなりました。

ならコープ



奈良女子大 青木 美紗ゼミ



JAグループマルシェ

若者 応援プロジェクト奈良 2025

奈良県立大学フードパントリー

5月29日午後奈良県立大学生協食堂で、奈良県生協連の若者応援プロジェクト奈良2025年度初の活動として、フードパントリーを実施しました。

今回のフードパントリーは、全国的に米が手に入りにくく、あったとしても大変高価で手が届きにくい状況の中で、白米5kgとレトルトカレー2袋の配布を、下宿生限定の27名に実施しました。

今回の白米は、3月に納入されたもので、生活クラブ生協の組合員さんによる「おふくわけ活動」として困っている学生さんのためにと寄付して下さった白米5kg入り27袋です。物価高騰で学生さんたちが困っている実態が分かりました。



一人ひとりにお米を渡しました。
ならコープからの雑貨類や組合員が寄付した文房具もお持ち帰りいただきました。

苦しくなった理由

(学生アンケートから)

- ①生活費があがった……………65%
- ②仕送りが減った……………10%
- ③アルバイト収入が減った…10%
- ④その他……………10%

感想

最近はお米の値段が高騰していて買う度に泣きそうなのでこの機会のおかげで半年は笑顔で暮らせそうです。卵焼きのためのフライパンも欲しいなと思っていて、まさかの無料でいただけるなんて思わなかったの今日は踊りながら過ごします。プロジェクトの方も優しい方ばかりでお話もとても楽しかったです。またお話出来たら嬉しいです。

仕送りがなく自分のアルバイト代で生活していますが、食費が上がりが大変だったので今回の食糧支援とても助かりました。

能登半島地震 被災地支援活動

～仮設住宅でのサロン活動より～



大阪府生協連から「能登半島地震被災地支援サロン活動共同企画の実地演習」に参加呼びかけがあり、5月3日4日にかけて会員生協ならコープが輪島市で支援活動を行いました。今回は、仮設住宅にお住まいの方々を対象に「たこ焼き」の炊き出しを実施、現地の様子を直接見聞きし、今後の支援の在り方を考える機会となりました。

3日は午後から、輪島市門前町道下(もんぜんまちとうげ)にある道下第1団地集会所を訪問、4日午前には、輪島市町野町(まちのまち)へ移動し、金蔵(かなくら)集会所で活動を行いました。午後には町野町第一団地(粟蔵川原田)の集会所へ。ここでは、仮設住宅の方々と一緒にたこ焼きを共同でつくことは、単なる炊き出しとは異なり、住民の方々との交流の機会となりました。

特に印象的だったのは、仮設住宅の小学生と一緒にたこ焼きを作る機会があり、共同で作業する中でコミュニケーションを取ることができました。子どもたちに関西弁を指摘されるなどの、楽しいやり取りもありました。町野の仮設住宅には小学生のお子さんが多かったため、このようなサロン活動を通じて子どもたちのレクリエーションを提供する重要性を感じました。

今回の活動を通して、仮設住宅の現状や住民の方々の暮らしを自分の目で見て体験できたことは大変貴重な経験でした。一方で、炊き出しで提供したたこ焼きをその場で食べられる方が少なく、単に配るだけでは仮設住宅の方とじっくり交流する機会がなかったことが心残りでした。この経験から、炊き出しだけでなく、共同作業等で交流する機会を設けることが、より良い支援につながるのではないかと感じました。



おじゃましました // 第2回健康マルシェ

～奈良県医療福祉生協編～

～すべての人に健康と福祉を～

4月13日、昨夜から激しい雨が降って開催が心配されましたが、つかのまの晴れ間に恵まれ、規模を縮小したものの、予定通り「第2回健康マルシェ」が奈良県医療福祉生協で無事開催されたので参加してきました。

昨年4月の健康マルシェに続き、地域みなさんと組合員が楽しくつどい、健康づくりにつながるようにと企画され180人の方が参加されていました。

本部受付でラリーカードをもらい、4つ以上のシールを集めると参加賞がもらえました。

生協ホール



生協ホールでは医療福祉生協の理事さんや活動サポーターさんによる健康チェックに多くの組合員さんが参加。橿原市スポーツ推進委員のみなさんによる「長座体前屈」「握力チェック」「開眼片足立ち」の体力測定を実施。



介護や医療相談のコーナーもありました



みみなし診療所では診療所見学の後、管理栄養士による「食事のバランスについて」のお話をお聞きました。

駐車場会場(コープみみなし側)



ならコープとコープ自然派奈良のキッチンカー、地元のケーキ屋さん「エクラ」のスイーツ、「手芸のワキタ」手芸材料販売、ならコープみみなし・南エリアの試飲と販売やフリーマーケットなどがあり、いずれも人気で早くに完売となりました。

天候の良くない中、フードドライブに食品と文房具11.6kgのご協力をいただきました。ならコープ コープみみなしを通じて「もったいないNARA」にお届けするとのことでした。



奈良県生協連より

2014年9月、地域まるごと健康づくり運動として始まった「健康チャレンジ」も支援して10年以上がたち多くの方に参加いただきました。「ウォーキングコース」「きちんと歯磨きコース」にチャレンジした方も多かったようです。そして2025年、「いつでも健康チャレンジ」として用紙をリニューアルすることになりました。みなさまに支えられて継続してきたこの取り組みを、これからももっと身近に、もっと楽しく続けていただけるよう内容を少し変更しました。

新しい用紙では、日々の生活の中で取り入れやすい健康習慣を複数のコースとしてご用意しています。

これからも「いつでも健康チャレンジ」を通じて、地域の健康づくりを応援していきます。新たな気持ちで、ぜひご参加ください。



「いつでも健康チャレンジ」シートが新しくなりました。



県連日誌

4月

- 1日(火) 新年度県庁挨拶
- 2日(水) 日本生協連 関西地連運営委員会、地区別総会議案検討会議
- 4日(金) 奈良県社会福祉協議会挨拶
- 10日(木) 日本生協連・平和ライブラリーづくり交流会
- 11日(金) 奈良の食と農を考えるマルシェ実行委員会
- 17日(木) ピースアクションをすすめる会
- 24日(木) なら消費者ねっと理事会
- 29日(火) きょうされん全国大会実行委員会、きょうされん定期総会出席
- 30日(水) 吉野共生プロジェクト推進委員会・旧阿太小

5月

- 3日(土) 能登半島地震被災地支援サロン参加(～5/4)
- 7日(水) 監事期末監査

- 13日(火) なら消費者ねっと理事会
- 14日(水) 奈良県協同組合協議会事務局会議
- 15日(木) 非常用通信訓練 行政・生協協議会県連第7回理事会 奈良教育大学生協通常総代会
- 16日(金) 大阪府生協連 能登支援事務局会議
- 18日(日) 吉野共生プロジェクト・白屋地区草刈り
- 20日(火) 滋賀県生協連調査訪問
- 22日(木) PFAS学習会/京都府生協連、奈良高専生協通常総会
- 23日(金) 奈良県労済生協選挙管理委員会 関西消費者団体連絡懇談会検討会議 奈良女子大学生協通常総代会
- 26日(月) 奈良県建築安全安心推進協議会 吉野共生プロジェクト推進委員会
- 27日(火) 奈良県立大学生協通常総会
- 29日(木) 若者応援プロジェクト奈良2025 in 奈良県立大学生協
- 30日(金) 奈良県農村地域づくり協議会総会・報告会

6月

- 1日(日) 奈良の食文化研究会通常総会
- 2日(月) 奈良県協同組合連絡協議会・事務局会議
- 5日(木) 奈良防災プラットフォーム連絡会団体会議
- 9日(月) 生活クラブ生協通常総代会
- 13日(金) 日本生協連・第75期通常総会
- 14日(土) なら消費者ねっと通常総会
- 17日(火) ならコープ通常総代会
- 20日(金) 大阪府生協連能登支援事務局会議
- 21日(土) 奈良県医療福祉生協・通常総代会
- 22日(日) Peace Now! 奈良2025
- 24日(火) コープ自然派奈良通常総代会、きょうされん全国大会実行委員会
- 25日(水) 日生協・能登を笑顔にミーティング
- 26日(木) なら消費者ねっと理事会
- 27日(金) JAならけん総代会 防災プラットフォーム検討会
- 28日(土) 奈良県生協連・第36期通常総会・懇親会
- 30日(月) 吉野共生プロジェクト推進委員会

公示

ピースアクションinなら2025 きょうされん・奈良県生活協同組合連合会 共同企画

きょうされん第48回全国大会 in 奈良 特別シンポジウム(一般公開講座)
被爆・戦後80年障害のある人と戦争を考える
～人権と平和が花ひらく未来をひきよせるために

日時 10月17日(金) 15:15～17:15

会場 奈良県コンベンションセンター コンベンションホール

講演 濱住 治郎氏(日本原水爆被害者団体協議会 事務局長)

トークセッション: 濱住 治郎氏・藤井 克徳氏(きょうされん専務理事)

シンポジウム: 中野 素子氏(ピースアクションをすすめる会)

秋保 喜美子氏(きょうされん広島支部)・きょうされん長崎支部

進行: 斉藤 なを子氏(きょうされん理事長)

参加費:無料

ありがとうございました。

7月1日を持ちまして、奈良県生協連の事務局を退任することとなりました。



三谷 豊

一昨年の4月に配属され僅か2年3カ月

と短い期間ではございましたが、関係各団体の皆さまに支えていただきましたことを心より感謝申し上げます。今後は生協活動の現場にて、生協連で得た経験を活かして活動して参ります。

編集後記

2025 国際協同組合年、被爆・戦後80年、被災地支援、食と農、地域共生社会づくりに向けて、今年をスタートと位置づけ、過去・現在の事実・実態を知り、学び、考え(過去にとらわれず)、行動(チャレンジ)、困りごとや願いの実現を多くの方々とめざす年に。

(武)

「下がないコメの値段と血糖値」(「2024サラ川」の一句)。〇〇劇場が続いたが、「生産者が安心してコメ作りができ、消費者が安全・安心なコメを安定した価格で得る」にはどうしたらよいのだろう。

(和)

この年齢になると会える時に会おうが合言葉。40年ぶりに行った新宿や渋谷にすっかり「奈良の人」になっている自分を実感しました。

(順)

7月の人事異動で、新天地デビューとなりました。これまで培ってきた経験が、まるで夏の日の水のように溶けていく感覚を味わっています。右も左もわからないまま、まるで迷子のセミのようにジタバタしておりますが、周りの皆様の温かいご支援に助けられています。この夏、たくさん汗をかき、たくさん失敗もするでしょうが、この新たな場所で精一杯、足跡を残していきたいと思っています。

(幸)

暑い夏、子どもが小さい頃は水辺で水遊びをして楽しかった事を思い出します。でも、近頃は気温が高すぎて外で遊ぶこともためらってしまいます。これからは、子ども達が安心して外で遊べる環境を維持するために何ができるかを考えていきたいですね。

(佳)

奈良県生活協同組合連合会 〒630-8136 奈良市恋の窪1丁目2-2

TEL 0742-34-3535

FAX 0742-34-0043

URL <https://www.narakenren.coop/>